

営農技術情報

一畑作（春まき小麦）4月号一

平成31年 4月 5日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524
JA道北なよろ TEL01655-3-2521
JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～早期は種により、収量・品質向上を図りましょう！～

1 ほ場の乾燥促進と排水対策

融雪が遅れそうな場合は、融雪材の再散布や「雪割り」等により、できるだけ速やかにほ場を露出させましょう。

ほ場内の滞水は、溝切りや額縁明渠等により速やかに排水させた上で、サブソイラー等で心土破砕を行ない、排水性の向上とほ場の乾燥を早めましょう。

2 土壌改良

pH5.5～6.0を目標に石灰資材を施用しましょう。

小麦は銅欠乏が発生しやすいため、新畑や長期間小麦の作付けがないほ場では、基肥に銅入り肥料銘柄を使用するか、予め微量元素入りの土改材を施用して下さい。

3 碎土・整地時の留意点

表面が乾いても、下層の土壌水分は高いと思われます。碎土が粗くなりすぎないように、作業前に土壌水分を確認しましょう（軽く握って崩れない程度）。

整地後は、ほ場が乾きすぎないように、なるべく時間を空けないで種して下さい。

4 は種時期・は種量

生育日数が長いほど収量が高まります。できるだけ早期に、は種を行いましょう。
は種量は、m²当たり 340粒（13～14kg/10a）程度が標準量です。は種が遅れる場合は、18kg/10a程度を上限とします。

は種深度は2～3cmとなるように調節し、は種後は、鎮圧を実施しましょう。

5 施肥

基肥は、表1を目安に地力や前作に応じて加減して下さい。

表1 春まき小麦の施肥標準（基準収量（粗麦）360kg/10a設定の場合）

土壌区分	基肥施用量(kg/10a)			
	窒素	リン酸	カリ	苦土
低地土	8	12	8	3
泥炭土	6	14	9	4
台地土	9	14	8	4

※過去の収量実績から、基準収量「360kg/10a」を変更する場合は、収量30kg毎に窒素施肥量を1kg/10a程度増減することが可能です。過度の増肥は倒伏を助長しますので、注意して下さい。

6 は種後の除草剤例（登録内容は4月2日現在）

薬剤名	使用時期	10a当り使用量	散布液量	使用回数
ガレース乳剤	は種後～出芽前	200～250ml	100 ^{リットル}	1
	小麦1～3葉期	100～150ml		

※ スズメノカタビラに対しては生育が進むと効果が劣る。

※ イヌカミツレが多発するほ場では、基準範囲内の高薬量で散布する。